

さくら教室だより

カラー版は九小のHPで公開しています。



令和6年6月14日
東久留米市立第九小学校
校長 山本 真美 枝
特別支援教室 担任



1学期も折り返しが過ぎました



6月も半分過ぎました。6月は祝日のない月です。大きな行事もなく、学校生活も単調になりがちです。そんなときこそ基本に立ち返り、児童の「わかった!」「できた!」が実感できるような授業を実践していくことで、児童の学校生活を充実できるように努めていきます。



<個人面談が始まっています>



今週から、個人面談が始まりました。保護者の皆様にはご多用にもかかわらずご出席いただきありがとうございます。

今年度からの新たな試みとして、個人面談で保護者の皆様に確認いただいた【連携型個別指導計画】を青ファイルに挟み、いつでも確認できるようにします。【連携型個別指導計画】は、①さくらの担当 ②学級担任 ③学校長 ④保護者 の4者で確認して作っています。

児童の退室に向けたイメージを共有し、計画的に指導を行うための書類です。また、前期末(10月頃)に、その目標をどれほど達成しているのかの評価も3段階で出します。何か疑問などがありましたら、何でもご質問ください。



〇梅雨の時期のお願い



今年も、もうすぐ梅雨の時期がやってきます。気温も毎日20℃を上回る日々が続いています。体温調節や健康管理が難しい季節がやってきました。

先日、休み時間のあと、汗だくのままさくら教室にやってきた児童がいました。理由を聞くと、「ハンカチ持ってない」とのことでした。どうやら、トイレの後の手洗いもズボンなどで拭いて済ませているようです。清潔を意識することは、大人になっても大事なことです。小さい頃からハンカチを持つことを習慣づけていきたいですね。ぜひ【ハンカチ】を忘れずに持たせてください。

また、この時期、体育着袋などに【汗拭きタオル】が入っていれば、体育のあとも汗を拭くことができます。ご協力をお願いします。

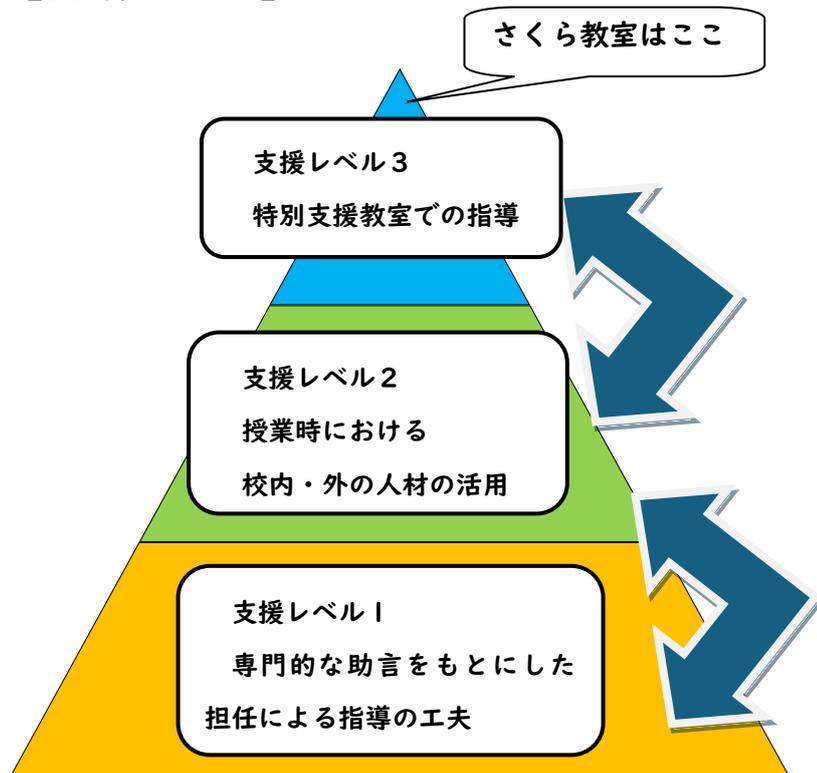
【さくら教室のちょこっとコラム】 退室の話

さくら教室で力をつけたあと、どのような流れで退室にいたるのか、あまり説明していませんでしたので、今回は退室についてまとめてみます。

参考：東京都教育委員会 HP「特別支援教室の運営ガイドライン」（アクセス：2024/06/04）



【支援レベル】



東京都では、児童の支援の段階を3つのレベルに分けています。レベル1は【心理士などの助言をもとにした担任による指導や教室環境の工夫】、レベル2は【担任以外の人材に支援が必要なおきをお願いする】、そしてレベル3が【特別支援教室での指導】です。

この3つのレベルの支援を段階的に行っていき、レベル2でも改善が見られないと、初めてさくら教室などの特別支援教室での指導が検討されます。また、逆に入室当初の課題の改善が見られた場合は、支援レベルの引き下げもあります。

【特別支援教室の指導期間】

東京都では、特別支援教室の指導期間は原則1年間（年度途中で入室した児童は、よく年度末まで）と決められています（1年間の指導で入室時の目標が達成できていないときは、延長する場合があります）。また、年度途中で、支援レベルが3から2になったと判断されたときは、退室の話を学校から提示しています。

もちろん、退室後に同様の生活上・学習上の課題が見られるようになった場合は、再入室することも可能です。



保護者の方に退室を提案する前に、校内で会議を開いています。管理職、さくら教員、担任、生活指導主任、特別支援コーディネーターなどで慎重に学校での様子を話し合っています。また、退室後の様子や支援方法についても随時、情報を共有していきますのでご安心ください。